

[成果情報名] イチゴ新品種‘栃木 iW1 号’の育成

[要約] 栃木県産イチゴ商材のバリエーション拡大を目的として、果皮、果肉ともに白さが際立ち、大果で食味に優れる特性を有するイチゴ系統‘栃木白 1 号’を育成し、系統適応性検定試験の結果、実用性に一定の評価が得られたことから、2018 年 1 月に‘栃木 iW1 号’の品種名を付して品種登録出願し、同年 4 月に出願公表となった(出願 No32822)。

[キーワード]イチゴ、新品種、促成栽培

[担当]

[代表連絡先]電話：0282-27-2715

[研究所名]栃木県農業試験場いちご研究所開発研究室

[分類]

[背景・ねらい]

栃木県のイチゴ生産は本県農業を代表する品目として、農業関係者はもとより観光業や飲食業、食品製造業などの関連産業界からも本県イチゴ産業の発展が強く求められている。そこで、本県産のイチゴの魅力向上と関連商品の多様化を目的として、収量性と食味に優れる白イチゴ品種を育成する。

[育成経過]

1. 2011 年度に‘和田初こい’購入果実から育成した実生個体群から果皮が白色で果実が硬い系統を選抜し、2012 年度にその系統に果皮色が淡赤色で良食味の系統‘09-52-1’を交配して得た実生個体群から系統‘13-w1-2’を選抜した(図 1)。
2. 系統選抜試験、特性検定予備試験、特性検定試験を行い、収量性、果実の外観および食味に優れると判断された。このため、2016 年度に系統名‘栃木白1号’を付し、系統適応性検定に供試したところ一定の評価が得られたため、2018 年1月に‘栃木 iW1 号’の品種名を付して品種登録を出願し、同年 4 月に出願公表となった(出願 No.32822、図 1)。

[主な特性]

1. 草姿は開張性で(図 2)、草勢および草丈は‘とちおとめ’並で(表 1)、ランナーの発生はやや少ない(データ略)。
2. 頂花房の着花数は‘とちおとめ’より少なく、収穫始期は‘とちおとめ’よりもやや早い(表 1、2)。
3. 可販果収量は‘とちおとめ’よりも多く(図 3)、平均一果重も優れ(表 3)、30g以上の果実の発生割合が高い(図 3)。
4. 果形は円錐形で果皮は黄白色で光沢があり果肉は白色で(図 4)、厳寒期に先つまり果が発生しやすい(図 5)。
5. 糖度は‘とちおとめ’と同程度、酸度はやや低く良食味で、果実硬度は同程度である(表 4)。
6. 果実熟度は陽光面のそう果の赤味の割合で判断することができる。

[成果の活用面・留意点]

1. 当面は、県内観光いちご摘み取り園や観光直売所での販売を主として普及を図ることとし、2020 年度を目途に一般栽培を開始する予定である。
2. 品種登録後の県外への品種利用許諾の実施に関しては現在のところ未定である。

[具体的データ]

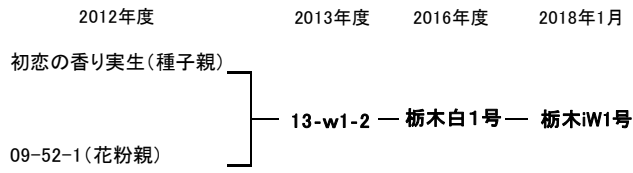


図1 育成経過



図2 栃木 iW1 号の草姿

表1 葉長および着花数、収穫果数

品種	11月16日(cm)			1月20日(cm)			頂花房着花数 (個/株)	収穫果数 (果/株)
	葉柄長	葉身長	葉幅	葉柄長	葉身長	葉幅		
栃木iW1号	9.2	10.5	9.4	10.3	8.6	6.3	11.5	40.3
とちおとめ	10.1	10.0	7.9	9.4	7.2	5.6	18.8	43.7

表2 開花始期および収穫始期

品種	開花始期(月/日)		収穫始期(月/日)		
	頂花房	一次腋花房	頂花房	一次腋花房	二次腋花房
栃木iW1号	11/8	12/12	12/7	1/19	2/23
とちおとめ	11/5	12/11	12/12	1/20	3/1

表3 1果重及び障害果率

品種	1果重 (g)	先つまり果率 (%)
栃木iW1号	20.9	8.2
とちおとめ	16.4	0.2

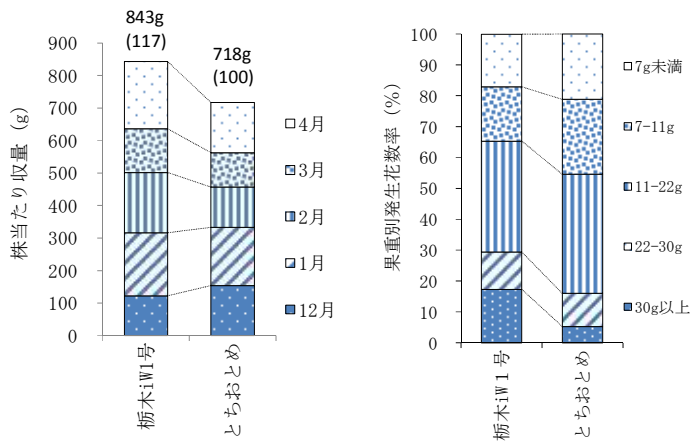


図3 可販果収量および果重階級別発生果数率

表4 糖度、酸度、硬度

品種・系統	糖度 (Brix)	酸度 (%)	硬度 (gf/φ2mm)
栃木iW1号	10.1	0.50	58.5
とちおとめ	10.5	0.61	57.5



図4 果実の外観および断面



図5 先つまり果

